

# 官公庁 4.0 研究会 第 6 回研究会 開催報告

## 1 開催概要

日時： 2025/2/8（土） 14:00～16:00

場所： オンライン（Zoom）

テーマ：奈良市の情報システムの現状と課題ーガバメントクラウド・行政事務標準文字への対応の課題ー

講演者：奈良市 CIO（最高情報統括責任者） 中村眞様

参加費：情報システム学会の会員、非会員ともに無料

## 2 参加者

（1）事前申込 55 人

（2）参加者 43 人（事前申込のない参加者を含みます。）

（3）事前申込に対する参加率 78%

## 3 講演概要

自治体情報システム標準化・共通化（以下「標準化・共通化」と言います。）について、奈良市の状況をご説明いただきました。

### （1）全体スケジュール

奈良市では 2025 年 1 月から段階的に稼働させ、2026 年 3 月の期日までに対象の 20 業務システムがすべて標準準拠システムへ移行できる見込みである。

### （2）費用

費用については、講演直前に公表された中核市市長会（奈良市も中核市）の「地方公共団体情報システム標準化に関する緊急要望」では半数以上の自治体で従来の運用費用の 2 倍になる。

また、奈良市の各業務システムについて、運用費用をライセンス費用とガバメントクラウド費用に分け、それらを従来の運用費用と比較したものの、ガバメントクラウド費用の機能別内訳と本番系と検証系の費用割合という 3 つで分析したところ、運用費用におけるライセンス費用だけで従来の運用費用（機器、ライセンス料、メンテナンス費用）を上回ること、ガ

バメントクラウド費用に占める VM と RDB の費用の割合が多いこと、業務システムによってはガバメントクラウド費用の 1/3 を検証系の費用が占めることが明らかになった。

### (3) システム間連携

標準化・共通化対象業務については、各システム間の準拠する連携仕様のバージョンが異なるという課題がある。

その連携の各社の実装では、データの分割や結合など解釈に差異があり、最新フラグが立っているデータだけの取り込むなどの実装を想定してもうまく行かないという問題が認められた。

### (4) 文字コード

標準準拠システムについては、行政事務標準文字でシステム間連携するが、経過措置として、一部の標準準拠システムでは、システム内は現行の文字コード (MS 明朝+外字) にすることとした。標準化・共通化対象外のシステムでは、システム内は現行の文字コードとなっている。現行の文字コードと行政事務標準文字の対応が N:1 になっていると、逆変換できない。N:1 の対象者には表記文字に差異が生じる旨の通知を出すこととした。

### (5) 私が期待する「あったら良いな」と思う標準化

マイクロサービス化した部品を国が提供し、市区町村はそれを組み合わせて使う形にならないか。それにより、市区町村が住民目線でシステムを作れるようになるとよい。

Address based registry と住民が親しんでいる郵便番号のマッピングをすべきでないか。

この流れで、フロントヤードからバックヤードまで連携されて単純作業を置き換える DX が進み、住民にとってハッピーなものができるとうい、と考えている。

## 4 質疑応答

5 人の方からご質問やご意見をいただき、活発な質疑応答ができました。

## 5 参加者アンケートの実施

今後の本研究会開催を改善するため、無記名の参加者アンケートを実施しました。

参加者 43 人中、30 人の方から回答をいただきました（回答率 70%）。

**【開催案内】**

[https://www.issj.net/kenkyuu/2024\\_gov4/2024\\_gov4\\_250208annai.pdf](https://www.issj.net/kenkyuu/2024_gov4/2024_gov4_250208annai.pdf)